

114  
A 4343



海軍召集條例

右來廿七日(火曜日)午前九時  
會議、開、此段議長、命、  
依り及御報告矣也  
明治三十一年九月廿三日

樞密院書記官

大正十一年四月



一 海軍召集條例

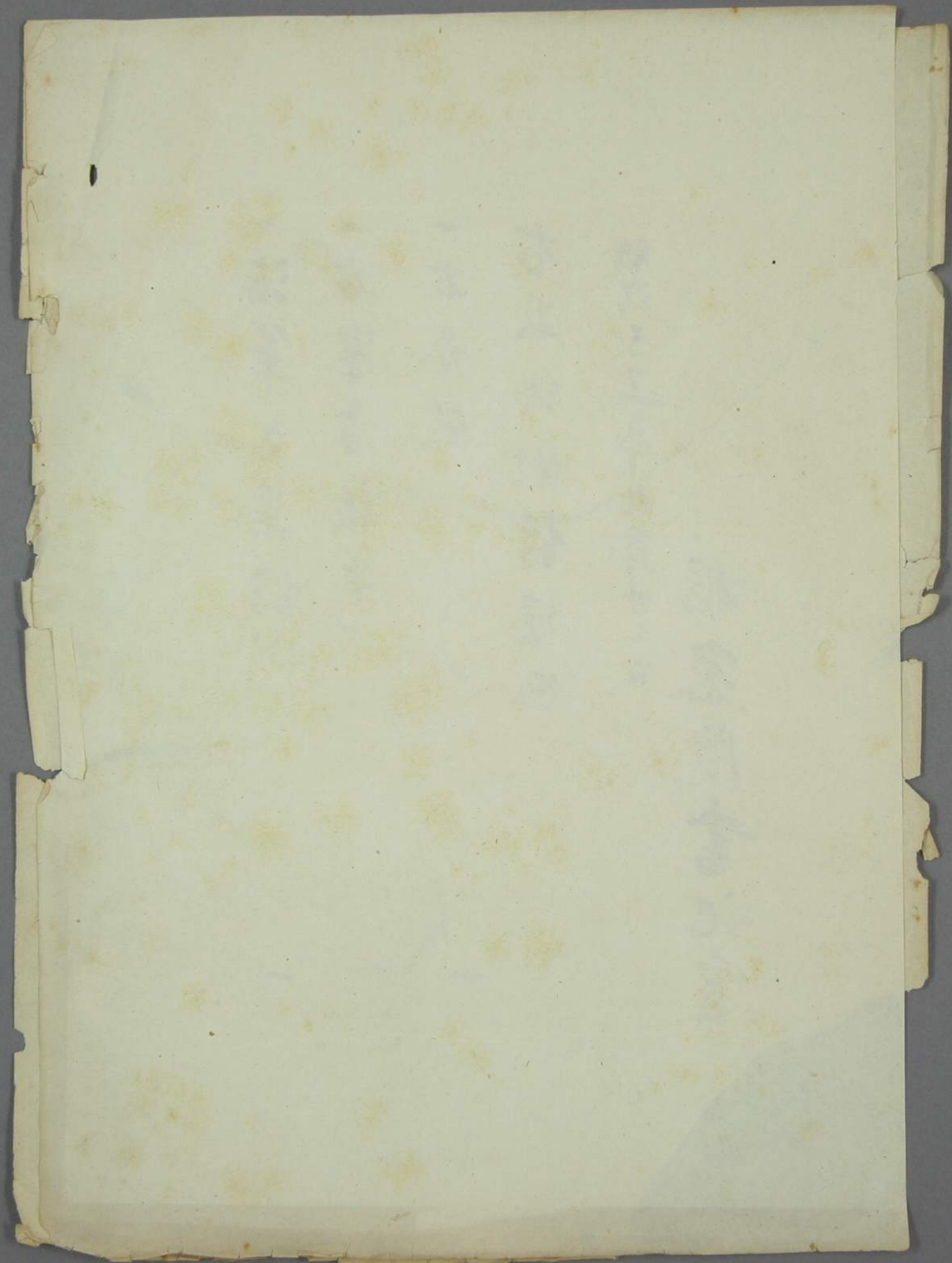
一 右審查報告

一 右參照

右及後配付據也

明治三十一年九月廿二日

樞密院書記官



審査報告

謹テ今回御諮詢ノ海軍召集條例ヲ審査ス  
ルニ從來海軍准士官以上ノ召集ニ關シテハ  
何等ノ規定ナク下士卒ノ召集ニ關シテモ單  
ニ臨時召集令(明治二十七年海軍省令第七号)アルノミニシテ  
演習召集及簡閱點呼ニ關スル規定ヲ缺クヲ  
以テ本條例ハ汎ク海軍軍人ニ對スル各種ノ召  
集ヲ規定セントスルモノニシテ適當ヲ得タリ  
ト認ム但其條項中妥當ヲ欠クモノナキニ非ス  
且ツ本年勅令第百二十三号海軍下士卒服役

條例ト紙觸スルノ嫌アルモノアリ因テ別紙修正理由ニ基キ朱書ノ通り修正セラルルヲ可ナリト認ム

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

明治三十一年九月廿二日

樞密院書記官長平田東助

樞密院議長伯爵黒田清隆殿

参照

○明治三十一年六月二十三日勅令第百二十四号

海軍下士卒服役條例

第二十八條 豫備役後備役下士卒十四日以上  
 旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集通報人  
 ヲ定メ市町村長ヲ經テ本人ノ籍ヲ管スル海  
 兵團長ハ届出ヲ歸郷ニタルトキハ十四日以  
 内ニ市町村長ヲ經テ本人ノ籍ヲ管スル海兵  
 團長ニ届出ヘシ但シ外國へ航海又ハ在留セ  
 ントスルトキハ其ノ事由ヲ記シ市町村長ノ

大正十一年四月  
 大隈侯爵御贈

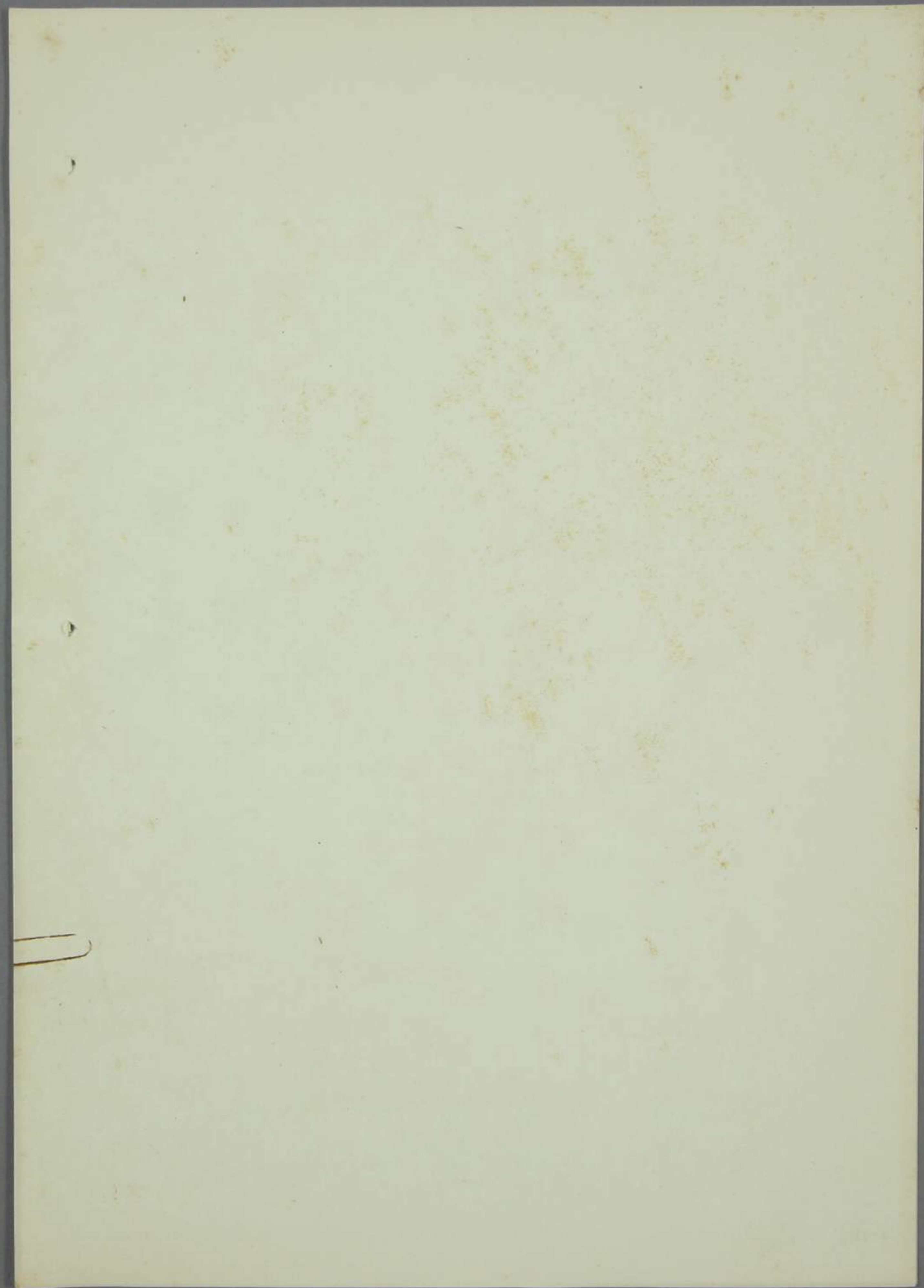


奥書證印ヲ受ケ本人ノ籍ヲ管スル海兵團長  
ニ届出ヘシ其ノ歸朝セシトキハ十四日以内  
ニ市町村長ヲ經テ本人ノ籍ヲ管スル海兵團  
長ニ届出ヘシ

第三十一條 豫備役後備役下士卒ハ其ノ本籍  
地ニ於テ召集ニ應スルヲ例トス但シ本邦ニ  
在テハ寄留地ニ於テ外國在留ノ者ニ在テハ  
其所在地ニ於テ豫算タル者ニ在テハ本人ノ  
屬スル船舶ノ船籍港若ハ平常運航ノ一港ニ  
於テ召集ニ應スルコトヲ得

前項但書ニ依リ召集ニ應セントスル者ハ本  
籍所在ノ市町村長ヲ經テ本人ノ籍ヲ管スル  
海兵團長ニ届出ヘシ但シ外國在留ノ者ハ本  
文ノ手續ヲ為スト同時ニ在留國ノ領事官貿  
易事務官ヲ經テ本人ノ籍ヲ管スル海兵團長  
ニ届出ヘシ

第四十條 第二十七條第二項第二十八條ノ召  
集通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通  
報セス若ハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者ハ一日  
以上十日以下ノ拘留ニ處ス





明治三十一年九月廿二日郵付

本案墨書ハ原案ニシテ朱書ハ書記官長ノ修正案ナリ  
但シ修正ハ主務省ト協議済ナリ

樞密院書記官

# 海軍召集條例

(朱書ハ修正)

大正十一年四月  
樞密院書記官



明治三十一年九月廿二日郵付

海軍召集條例

(朱書八修正)

大正十一年四月  
贈月

勅令第 號

海軍召集條例



第一章 總則

第一條 本條例ハ豫備役後備役ニ在

ル海軍軍人ノ召集ニ關スルコトヲ

規定ス

豫備役後備役ニ在ル海軍軍人ノ召

刪除

集ハ戰時若ハ事變ニ際シ充員ノ為  
又ハ平時ニ於テ演習及簡閱點呼ノ  
為之ヲ行フ

第二條 准士官以上ノ召集ハ海軍大  
臣之ヲ行ヒ下士卒ノ召集ハ鎮守府  
司令長官之ヲ行フ

第三條 戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル

諸官時機切迫シ命ヲ請フノ暇ナキ  
トキハ獨斷ニテ豫備役後備役下士  
卒ノ召集ヲ行フコトヲ得

第四條 鎮守府司令長官ハ部下將校  
ヲシテ定期若ハ臨時ニ諸官衛及公  
署ニ於ケル召集事務ノ整否ヲ検査  
セシムヘシ

地方長官警視總監憲兵司令官憲兵  
隊長ハ其ノ所部召集事務ノ整否ヲ  
検査シ又ハ部下官吏ヲシテ之ヲ檢  
査セシムヘシ

第五條 召集ニ關スル細則及旅費支  
給ノ方法ハ海軍大臣之ヲ定ム

第六條 召集ハ充負召集演習召集及

簡閱點呼ノ三種トス

第七條 充負召集トハ戰時若ハ事變

ニ際シ充負ヲ行フ為豫備役後備役

軍人ノ一部又ハ全部ヲ召集スルヲ

謂フ

充負召集事務ニ關シ責任ヲ有スル  
者ハ豫メ之ニ關スル諸行務ヲ整備

之置キ召集實施ニ際シ凝滞ナキヲ  
期スヘシ

充員召集發令ノ後ハ召集事務ニ關  
シ訓示命令等ヲ請フコトヲ得ス

第八條 演習召集トハ演習ヲ行フ爲  
平時ニ於テ豫備役後備役軍人ヲ召  
集スルヲ謂フ

第九條 演習召集ヲ大演習召集及小  
演習召集ノ二種ニ分ツ

大演習召集トハ大演習施行ノ際豫  
備役後備役軍人ノ全部若ハ一部ヲ  
召集スルヲ謂ヒ小演習召集トハ小  
演習施行ノ際豫備役後備役下士卒  
ノ全部若ハ一部ヲ召集スルヲ謂フ

第十條 簡閱點呼トハ豫備役後備役  
下士卒ヲ實查スル為時期ヲ定メ其  
ノ全部若ハ一部ヲ召集スルヲ謂フ

第十一條 充員及演習召集ニ應シ到  
著スヘキ場所ハ豫備役後備役准士  
官以上ニ在テハ海軍大臣之ヲ定メ  
豫備役後備役下士卒ニ在テハ其ノ

兵籍ヲ管スル海兵團トス

第十二條 簡閱點呼ヲ行フ場所ハ簡  
閱點呼執行官之ヲ定ム

第十三條 充員召集及演習召集ニハ  
召集令狀ヲ發シ簡閱點呼ニハ點呼  
令狀ヲ發ス

第十四條 召集令ハ迅速確實ナル方

法ヲ以テ通達スヘシ

第十五條 豫備役後備役下士卒ノ一部ヲ召集スルトキハ鎮守府司令長官ハ何年何月以後ニ現役ヲ離レタル者ヲ召集スヘキコトヲ定ム

第十六條 豫備役後備役下士卒ノ召集區域ハ海軍志願兵徵募區ノ區域

## ニ依ル

### 第二章 召集準備

第十七條 召集ノ實施ヲ容易ナラシムル為豫備役後備役准士官以上ノ召集名簿ハ海軍省ニ於テ下士卒ノ召集名簿ハ其ノ兵籍ヲ管スル海兵團ニ於テ整備シ置クヘシ



第十八條 准士官以上ノ召集令状ハ  
海軍省ニ於テ調製保管シ下士卒ノ  
召集令状ハ海兵團ニ於テ調製シ豫  
メ之ヲ郡市長ニ送付シ郡市長ハ召  
集ノ發令アルマテ之ヲ保管スヘシ  
但シ郡長ハ町村長ヲシテ召集令状  
ヲ保管セシムルコトヲ得

第十九條 海兵團ニ於テハ旅費證票  
ヲ作り召集令状ト共ニ郡市長ニ送  
付シ置クヘシ但シ郡長ハ町村長ヲ  
シテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第二十條 地方長官ハ市町村長ヲシ  
テ召集ニ應スル者ノ休泊ニ充ツル  
為豫メ市町村内ニ於テ海軍軍用旅

舎ヲ選定セシメ之ヲ憲兵隊及警察署ニ通知シ置クヘシ

第二十一條 地方長官ハ前條ノ外召集ヲ容易ナラシムル為相當ノ措置ヲ為スヘキモノトス

第二十二條 豫備役後備役軍人ハ其ノ本籍地ニ於テ召集ニ應スルヲ例

トス但シ本邦ニ在テハ寄留地ニ於テ、外國在留ノ者ニ在テハ其ノ所在地ニ於テ、海員タル者ニ在テハ本人ノ屬スル船舶ノ船籍港若ハ平常運航ノ一港ニ於テ召集ニ應スルコトヲ得

前項但書ニ依リ召集ニ應セントス

ル者ハ市町村長ヲ經テ准士官以上  
ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テ  
ハ其ノ兵籍ヲ管スル海兵團長ニ届  
出ヘシ但シ外國在留ノ者ハ本文ノ  
手續ヲ為スト同時ニ在留國ノ領事  
官貿易事務官ヲ經テ准士官以上ニ  
在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ

其ノ兵籍ヲ管スル海兵團長ニ届出  
ヘシ

第二十三條 豫備役後備役軍人十四  
日以上旅行或ハ寄留セントスルト  
キハ召集通報人ヲ定メ市町村長ヲ  
經<sup>テ</sup>准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ  
下士卒ニ在テハ其ノ兵籍ヲ管スル

海兵團長ニ届出トシテ歸郷シタルト  
キハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ  
准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下  
士卒ニ在テハ海兵團長ニ届出ヘシ  
但シ外國へ航海又ハ在留セントス  
ルトキハ其ノ事由ヲ記シ市町村長  
ノ奥書證印ヲ受ケ准士官以上ニ在

テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ海  
兵團長ニ届出ヘシ其ノ歸朝シタル  
キハ十四日以内ニ市町村長ヲ經  
テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ  
下士卒ニ在テハ海兵團長ニ届出ヘ  
シ

第三章 充員召集

第二十四條 海軍大臣及鎮守府司令

長官ハ充員召集ノ令アリタルトキ

ハ速ニ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守府

司令長官ハ同時ニ地方長官警視總監憲兵隊

長東京府令官以下ハ警視總監ニ通知

シ必要アルトキハ關係アル領事官

貿易事務官ニ通知スヘシ

第二十五條 前條ノ通知アリタルト

キハ地方長官ハ之ヲ郡市町村長並

召集事務ニ關係アル官吏ニ憲兵隊

長ハ之ヲ其ノ部下ニ達スヘシ

第二十六條 召集令状保管者充負召

集ノ令ヲ受クルトキハ令状ニ所要

ノ記入ヲ為シ直ニ豫定ノ方法ヲ以

テ之ヲ被召集人又ハ召集通報人ニ

交付シ受領証ヲ徴スヘシ下士卒ノ

召集令状ニ對スル受領證ハ取纏メ

之ヲ海兵團長ニ送付スヘシ

召集通報人ナキ不在者ニ在テハ其

ノ戸主ハ本人戸主又ハ戸主不在ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者

警視總監

ヨリ受領證ヲ出スヘシ

下士卒ノ召集令状保管者ハ前二項  
ニ依リ召集令状ヲ交付シタル者ノ  
人名竝事故アリテ之ヲ交付シ得サ  
ルトキハ其ノ人名其<sub>其</sub>事由ヲ速ニ  
憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ

第二十七條 充實召集令ノ達ヲ受ケ

タル官衙竝公署ハ直ニ軍事警報ヲ  
揭示スルモノトス但シ鎮守府司令  
長官ハ海軍大臣ノ命ニ依リ之ヲ揭  
示セシメサルコトヲ得

第二十八條 被召集人ニ代リ召集令  
状ヲ受領シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ  
本人ニ通報シ其ノ令状ヲ本人ニ交

付スルノ手續ヲ為スヘシ

第二十九條 准士官以上召集令状ヲ

受領シタルトキハ旅費ヲ受領シ速

ニ指定ノ場所ニ到着スヘシ

前項准士官以上ノ官姓名ハ豫メ海

軍省ヨリ到着地ノ長官ニ通知シ長

官ハ其ノ到着ノ都度最モ迅速確實

ナル方法ニ依リ之ヲ海軍大臣ニ報

告スヘシ

第三十條 下士卒召集令状ヲ受領シ

タルトキハ旅費及旅費證票ヲ受領

シ其ノ令状ニ指定シタル期日ニ於

テ海兵團ニ到着スヘシ

第三十一條 憲兵及警察官吏第二十



六條第三項ノ通知ヲ受クルトキハ  
其ノ被召集人ヲシテ所命ノ期日ニ  
召集ニ應セシムルノ處置ヲ為スハ  
シ

第三十二條 召集地ニ到ルノ途中ニ  
於テ已ムヲ得サル事故ノ為到着ヲ  
遅延スル場合ニ在テハ其ノ事故傷

疾疾病ナルトキハ醫師ノ診断書ヲ  
其ノ他ノ事故ナルトキハ其ノ事故  
ノ生シタル地ノ市町村長、警察官吏、  
船長若ハ驛長ニ就キ證明書ヲ受領  
シ到着ノ上准士官以上ニ在テハ到  
着地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ下士  
卒ニ在テハ海兵團長ニ差出スヘシ

前項ノ事故ヲ生シタルトキ准士官  
以上ニ在テハ迅速ナル方法ニ依リ  
其ノ事故及豫定延滞日數ヲ到着地  
ノ長官ニ届出テ該長官ハ之ヲ海軍  
大臣ニ報告スヘシ但シ東京ニ到着  
スヘキトキハ直接ニ海軍大臣ニ届  
出ヘシ

第三十三條 召集令状ノ交付ヲ受ク

ルモ已ムヲ得サル事故ノ為速ニ出  
發シ難キカ或ハ豫定期日迄ニ指定  
ノ場所ニ到着スルコト能ハサル場  
合ニ在テハ其ノ事故傷痍疾病ナル  
トキハ醫師ノ診断書ヲ添へ本人ヨ  
リ、旅行犯罪失踪等ナルトキハ召集

令状ヲ受領シタル者ヨリ事由届書  
准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ宛  
テ下士卒ニ在テハ海軍團長ニ宛テ  
ヨ二十四時間以内ニ市町村長ニ差  
出スヘシ

市町村長前項ノ届書ヲ受領スルト  
キハ准士官以上ノモノニ付テハ本  
人ノ到着スヘキ地ノ長官ヲ経テ海

軍大臣ニ下士卒ノモノニ付テハ海

兵團長ニ進達スヘシ

第一項ニ依リ届書ヲ差出シタル下

士卒ハ其ノ召集令状ハ之ヲ郡市長若ハ

町村長ニ返付スヘシ

第三十四條 前條第一項ニ依リ事由

届書ヲ差出シタル場合ニ於テ其ノ

場合ニ於テ

事故止ミタルトキハ准士官以上ニ  
在テハ速ニ海軍省ニ届出テ命ヲ待  
チ下士卒ニ在テハ速ニ郡市長若ハ  
町村長ヨリ召集令状ヲ受取り其ノ  
指示ニ従フヘシ

第三十五條 召集シタル下士卒ハ海  
兵團ニ於テ身體検査ヲ行フ身體檢

査ニ於テ服役ニ堪ヘスト認ムルト  
キハ召集ヲ解キ旅費ヲ給シテ帰郷  
セシム

第三十六條 召集ノ期ニ後ルル者ア  
ルトキハ下士卒ニ在テハ海兵團長  
准士官以上ニ在テハ到着地ノ長官  
事實ヲ糾シ相當ノ措置ヲ為スヘシ

第三十七條 下士卒ノ召集完結スル

トハ海兵團長ハ之ヲ鎮守府司令長

官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ其ノ

報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

正當ノ事由ナクシテ第二十三條ノ規定ニ背ク者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十八條 正當ノ事由ナクシテ第

二十八條ノ規定ニ背ク者ハ一日以

上十日以下ノ拘留ニ處ス

正當ノ事由ナクシテ第三十三條及

第三十四條ノ規定ニ背ク者ハ五十

錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ

處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留

ニ處ス

第三十九條 召集解除ノ令アリタル

トキハ海軍大臣及鎮守府司令長官  
ハ速ニ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守府  
司令長官ハ同時ニ地方長官憲兵隊  
長ニ通知シ旅費ヲ給シ被召集人ヲ  
帰郷セシム

第四十條 召集解除ノ行務完結スル  
トキハ海兵團長ハ之ヲ鎮守府司令

長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ其  
ノ報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第四十一條 召集ノ諸行務ニ関シ責  
任ヲ有スル諸員ハ召集解除後速ニ  
復タ召集ノ準備ヲ為スヘシ

第四章 演習召集

第四十二條 海軍大臣及鎮守府司令

長官ハ大演習召集ノ令アリタルト  
キハ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守府司  
令長官ハ同時ニ地方長官警視總監憲兵隊長  
ニ通知スヘシ

第四十三條 鎮守府司令長官小演習  
召集ヲ行ハントスルトキハ海軍大  
臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十四條 鎮守府司令長官小演習  
召集ヲ行フトキハ之ヲ其ノ部下ニ  
達シ同時ニ召集區域内地方長官警視總監憲  
兵隊長ニ通知スヘシ

第四十五條 大演習若ハ小演習召集  
ノ通知アリタルトキハ地方長官ハ  
之ヲ郡市町村長並召集事務ニ關係

警視總監

アル官吏、憲兵隊長ハ之ヲ其ノ部下ニ達スヘシ

第四十六條 演習召集ニハ第二十六

條及第二十八條乃至第四十一條ヲ

準用ス

第四十七條 第三十三條第一項ニ準

シ事由届書ヲ差出シタル場合ニ於

テ其ノ事故止ミタルトキハ准士官

以上ニ在テハ速ニ海軍省ニ届出テ

命ヲ待テ下士卒ニ在テハ速ニ郡市

長若ハ町村長ヨリ召集令状ヲ受取

リ其ノ指示ニ従ヒ旅費及旅費證券

ヲ受取り直ニ海兵團ニ到着スヘシ

但シ演習ノ前半期間ニ召集地ニ到



着スル能ハサル者ト認ムルトキハ  
郡市長若ハ町村長ハ其ノ發程ヲ差  
留メ之ヲ海兵團長ニ通知スヘシ

第四十八條

演習召集令狀ノ交付ヲ

受ケタル者其ノ父母重症ニ罹リ若  
ハ死亡シタルトキハ親戚又ハ近隣  
戸主二人以上連署ノ願書ニ市町村

長ノ奥書證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書  
若ハ死亡證ヲ添ヘ准士官以上ニ在  
テハ到着スヘキ地ノ長官ヲ經テ海  
軍大臣ニ下士卒ニ在テハ海兵團長  
ニ十四日以内ノ延期ヲ願出ルコト  
ヲ得

前項ノ場合ニ於テ海軍大臣、海兵團

長ハ審査ノ上其ノ願ヲ許可スルコトヲ得

第四十九條 正當ノ事由ナクシテ第四十七條ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五章 簡閱點呼

第五十條 鎮守府司令長官ハ簡閱點呼ノ為毎年一回豫備役後備役下士卒ヲ召集シ簡閱點呼執行官ヲ派出シ期日ヲ定メテ點呼ヲ行ハシム但シ他ノ召集ヲ行ヒタル年ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十四條

鎮守府司令長官ハ部下

將校若干名ニ簡閱點呼執行官ヲ命

シ之ニ必要ノ訓令ヲ授クヘシ又必

要アルトキハ簡閱點呼執行官ニ部

下主計官ヲ附スルコトヲ得

第五十三條

各簡閱點呼執行官ニハ下

士若干名ヲ附屬セシム

第五十二條

鎮守府司令長官點呼

集ヲ行ハントスルトキハ簡閱點呼

執行官ノ巡廻區及出發期日ヲ定メ

之ヲ海兵團長ニ達シ同時ニ之ヲ海

軍大臣ニ報告スヘシ

第五十一條

海兵團長前條ノ達シ受

ケタルトキハ簡閱點呼執行官ト協

議シ豫定順路ヲ定メテ之ヲ關係地  
方長官ニ通知スヘシ

第五十<sup>五</sup>條 地方長官前條ノ通知ヲ  
受ケタルトキハ之ヲ郡市長ニ達シ  
郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ市町村長  
ハ之ヲ豫備役後備役下士卒ニ豫告  
スヘシ

第五十<sup>六</sup>條

簡閱點呼召集所ハ地方  
廳管轄區域ノ廣狹及被點呼者ノ多  
少ニ依リ簡閱點呼執行官之ヲ定ム  
ルモノトス

點呼令狀ハ海兵團ニ於テ調製シ前  
項ニ依リ簡閱點呼召集所定マリタ  
ルトキハ海兵團長ヨリ之ヲ郡市長

ニ送付スヘシ

第五十五<sup>七</sup>條 簡閱點呼執行官ハ巡迴

日割ヲ定メ郡市長ニ通知スヘシ

郡市長前項ノ通知ヲ受ケタルトキ

ハ點呼令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ直

ニ豫定ノ方法ヲ以テ之ヲ破點呼者

又ハ召集通報人ニ交付シ受領證ヲ

徴スヘシ

召集通報人ナキ不在者ニ在テハ戸  
主本人戸主又ハ戸主不在ナレヨリ  
ハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ  
受領證ヲ出スヘシ

郡市長ハ事故アリテ點呼令狀ヲ交  
付シ得サルトキハ其ノ人名其ノ事  
ヲ速ニ憲兵及警察官吏ニ通知ス  
ヘシ

第五十六條 八 被點呼者ニ代リ點呼令

狀ヲ受領シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ  
本人ニ通報シ其ノ令狀ヲ本人ニ交  
付スルノ手續ヲ為スヘシ

第五十七條 九 被點呼者ハ指定ノ日時

迄ニ召集所ニ到着シ點呼ヲ受ケハ  
シ

第五十八條 被點呼者ノ往復旅費ハ

解散ヲ命スルトキ簡閱點呼執行官

若ハ簡閱點呼執行官附主計官ヨリ

給スルモノトス

第五十九條 憲兵及警察官吏第五十

五條第四項ノ通知ヲ受クルトキ<sup>其</sup>

被點呼者ヲシテ所命ノ日時ニ參會

セシムルノ處置ヲ為スヘシ

第六十條 郡市長並町村長ハ簡閱點

呼ニ參列スヘシ

第六十一條 被點呼者傷痍疾病其ノ

他ノ事故ニ依リ簡閱點呼ニ參會ス

ルコト能ハサルトキハ市町村長ヲ

經テ事由届書ヲ點呼執行日時ニ簡

閱點呼執行官ニ差出スヘシ但シ傷  
疾疾病ノ者ニ在テハ醫師ノ診斷書  
ヲ添フヘシ

第六十<sup>四</sup>條 被點呼者集合スルトキ  
ハ簡閱點呼執行官ハ點呼名簿ノ順  
序ニ從ヒ點呼ニ所要ノ調査ヲ行ヒ  
必要ノ訓示ヲ與ヘ解散ヲ命スヘシ

第六十<sup>五</sup>條 正當ノ事由ナクシテ簡  
閱點呼ニ參會セサル者及第六十<sup>三</sup>  
條ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一  
圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ  
五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス  
第六十<sup>六</sup>條 正當ノ事由ナクシテ第  
六十<sup>八</sup>條ノ規定ニ背ク者ハ一日以



上十日以下ノ拘留ニ處ス被點呼者  
簡閱點呼場ニ於テ簡閱點呼執行官  
ノ命令ニ服セス又ハ其ノ職務ノ執  
行ヲ妨害スルトキ亦同シ

第六十五條 簡閱點呼執行官簡閱點  
呼ヲ終ルトキハ點呼實況報告書及  
點呼人負表ヲ添ハ海兵團長ニ差出  
各三通 鎮守府司令長官

スハシ

第六十六條

海兵團長ハ前條ノ報告

鎮守府司令長官

書類

ヲ取纏メ鎮守府司令長官ニ差出シ

長ニ下付スハシ

鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ

進達スハシ

附則

第六十七條

本條例中郡市長ノ職務

ハ島司文廳長若ハ之ニ準スヘキ者  
並東京市京都市大阪市及市制町村  
制ヲ施行セザル地方ノ區ニ在テハ  
區長之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村  
制ヲ施行セザル地方ニ在テハ戸長  
及之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

修正案理由書

第一條第二項ヲ刪除シタル理由ハ本項ハ第六條第七條第八條第九條及第十條ノ規定アル以上ハ重複ニ属スルヲ以テナリ  
第二十二條修正ノ理由

本條ハ海軍下士卒服役條例第三十一條第一項ト殆ト同一ノ規定ニシテ服役條例ニ在テハ下士卒ニ限り適用シ本條例ハ廣ク下士卒及准士官以上ニ適用スルヲ異レリトス而シテ服役條例ニ於テハ尚第二項ニ於テ届出ノ

手續ヲ規定スルモ本條ニハ此規定ナキヲ以テ准士官以上ニ在リテハ届出ヲ為スヲ要セザルコト、ナリ下士卒ニ在テハ服役條例ニ依レハ届出ヲ為スヲ要スヘク本條例ニ依レハ届出ヲ為スヲ要セスト解釋シ得ラルヘシ然レトモ主務省ノ意見ハ服役條例ノ通り下士卒ハ無論准士官以上ニアツテモ届出ヲ為サシムルニ在ルヲ以テ第二項ヲ追加シタリ

### 第二十三條ノ理由

本條ハ海軍下士卒服役條例第二十八條上

段ト殆同一ノ規定ニシテ服役條例ニ於テハ尚帰郷シタル場合外國へ航海又ハ在留セントスル場合及帰朝シタル場合ノ規定アルモ本條ニハ此等ノ規定ナシ故ニ之ヲ追加セリ其理由第二十二條修正ノ理由ニ同シ

### 第二十四條修正ノ理由

本條割註ニ東京府ニ在ツテハ警視總監憲兵司令官云云トアリ之ヲ從來ノ用例ニ照ラスモ東京府ニ在テハ府知事ニ代ルニ警視總監、憲兵隊長ニ代ルニ司令官ト解釋セ

サレハカラス然ルニ主務者ノ意見ハ此割註  
ハ單ニ憲兵隊長ノコトニ係リ東京府ニ在テ  
ハ東京府知事ヲ警視總監ニ通知スハシ  
ト解釋セントスルニ在リ故ニ此意義ヲ明  
瞭ナラシメンカ為メニ改補シタリ

第二十五條修正ノ理由

第二十四條修正ノ結果ナリ

第三十三條第三項修正ノ理由

本條修正ハ主務者ノ希望ニ基ク其理由ハ第  
一項本人旅行犯罪失踪ノ場合ニ於テハ召集

令狀ヲ受領スル者ハ本人ナル下士卒ニ非ス  
故ニ本項ノ返付者ノ範圍ヲ擴張セントス  
ルニアリ

第三十七條修正ノ理由

既字

第三十八條修正ノ理由

本條例第二十三條ハ海軍下士卒服役條例  
第二十八條ニ相當ス而シテ服役條例第三十  
九條ニ於テハ同條例第二十八條ノ規定ニ背  
キタル者ノ制裁ヲ規定スルニ拘ラス本條例

ニ在テハ第二十三條ノ規定ニ背ク者ニ付テ  
之ヲ處罰スルノ規定ナシ從テ准士官以上ニ  
在テハ之ヲ罰セス下士卒ニ在テハ服役條例  
ニ於テハ之ヲ罰スヘシト規定スルモ本條例  
ニ於テハ之ヲ罰スルヲ得スト解釋スルヲ得  
ヘシ依テ本條ニ之カ規定ヲ設ケントス但シ  
處罰ノ程度ハ服役條例ノ規定ト同一ナリ

第三十九條修正ノ理由

第二十四條修正ノ結果ナリ

第四十二條修正ノ理由

第二十四條修正ノ結果ナリ

第四十四條修正ノ理由

第二十四條修正ノ結果ナリ

第四十五條修正ノ理由

第二十四條修正ノ結果ナリ

第四十六條修正ノ理由

本條ハ演習召集ニハ充員召集ニ關スル第二  
十八條乃至第四十一條ヲ準用セントスルモノ  
ナルモ第三十四條ニ相當スル規定ハ次條(第  
四十七條)ニ規定セラレ、ヲ以テ第三十四條

ハ之ヲ準用スルノ必要ナキノミナラス之ヲ  
準用スルニ於テハ次條ト抵觸ヲ生ス故ニ之  
ヲ修正セントス

第四十八條ハ 主務省<sup>(希望)</sup>ニ基キ新ニ設ケタルモ

ノナリ既ニ陸軍召集條例ニモ同様ノ規定  
アルヲ以テ妥當ナル追加ト認ム

第四十九條ハ 第四十六條修正ノ結果第二十  
七條ニ對スル制裁ヲ規定スルノ必要アリ依  
テ新ニ本條ヲ設ケタリ其處罰ノ程度第  
三十四條ニ同一ナリ

々

第四十八條第四十九條新設ノ結果以下各條順

次繰下ク

原案第五十一條修正ノ理由

豫備役後備役下士卒ヲ實査スル為時期ヲ  
定メ其全部若ハ一部ヲ召集スルヲ簡便ト呼  
ト云フ(第十條参照)故ニ点呼召集ナル特  
別ノ文字ヲ用ユルノ要ナシ

原案第五十九條中第五十五條ヲ第五十七  
條ニ原案第六十三條中第六十一條ヲ第  
六十三條ニ原案第六十四條中第五十六條

ヲ第五十八條ニ改メタルハ第四十八條以下  
順次繰下ケノ結果ナリ

原案第五十九條中其ノノ二字ヲ加ヘタルハ第三

十一條ノ文例ト同一ニセントスルニ在リ

原案第六十五條ハ主務者ノ希望ニ基キ修正シタ

ルモノニシテ其理由ハ執行官ハ鎮守府司令長官

ニ直隸スル者ナルヲ以テ海兵團長ヲ經由セス直

ニ司令長官ニ報告セシメシトスルニ在リ

原案第六十六條モ亦主務者ノ希望ニ基キ修

正シタルモノニシテ前條修正ノ結果ナリ



